

基礎研究機構

<https://www.iir.titech.ac.jp/ofr/index.html>



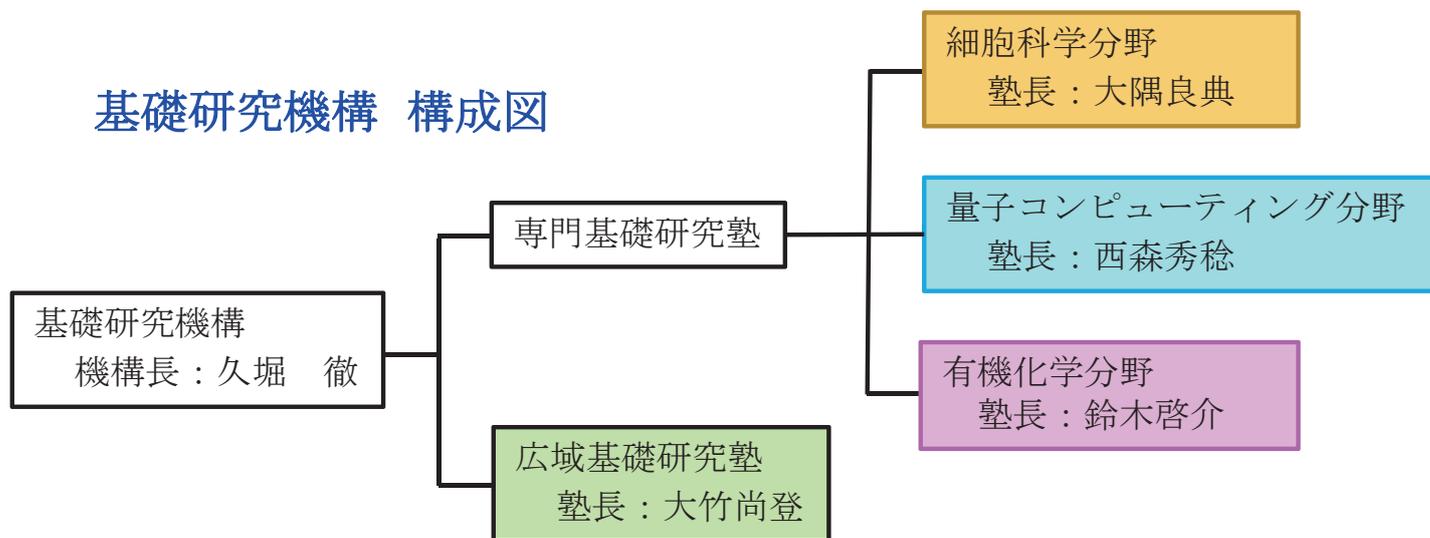
創設趣旨

基礎研究機構は、若手研究者に自らの学術的興味に基づいて独創的・萌芽的な研究課題を見出し、社会的な期待や責任を自覚しつつ研究を推進することの重要性を肌で感じられる場を提供することにより、人材育成と研究大学の発展を支えています。

組織構成

基礎研究機構は、専門基礎研究塾と広域基礎研究塾の二つで構成されています。専門基礎研究塾は現在3つの研究分野で若手研究者の育成を行っています。また広域基礎研究塾では、就任まもない助教を対象にして長期的視点に立った研究テーマの設定と異分野研究者の交流を促す研修会を実施しています。

基礎研究機構 構成図



三つの専門基礎研究塾

大隅塾（細胞科学分野）

細胞科学分野の将来を担う卓越した研究者を育成することを目指します。若手研究者が、落ち着いた研究環境の中で自身の学術的興味から細胞科学の研究課題を見出し、仮説の立案と検証を存分に行うことの出来る研究の場を提供して、基礎研究の発展を支えています。

西森塾（量子コンピューティング分野）

量子アニーリングの基礎理論や、量子力学が関わる物理現象の理解を志す若手研究者の育成していきます。長期的な視野に立って10年後、20年後に花開く新たな分野を開拓し、ひいては世界を先導する研究ができる環境を整え、結果として人々の生活や文化、社会を豊かにすることを目指します。

鈴木塾（有機化学分野）

塾長は40有余年にわたり有機合成化学（炭素原子を基本単位とするミクロの建築学）を学んできたが、未だ知技とも熟さず、これからも研鑽に努めたいと思っています。そこで、半学半教、老若男女を問わずこの基礎学問自体に興味のある人も、それを自分のテーマに役立てたいと思っている人も集って、発展途上人として学び、意見交換する場を設けたいと思っています。

広域基礎研究塾

若手研究者に、研究分野に関わらず自らの学術的興味に基づいて独創的・萌芽的な研究課題を見出し、社会的な期待や責任を自覚しつつ研究を推進することの重要性を肌で感じられる場を提供することにより、人材育成と研究大学の発展を支えています。

本学の助教を対象に塾生を募集し、3ヶ月間の研修会を実施します。塾生期間中は通常の業務が大幅に免除され、将来的な研究テーマを考える時間が与えられます。また研修会を通して異なる専門分野の仲間と議論しながら長期的な視点に立った研究テーマの創出と異分野研究者との共同研究の機会を醸成します。2020年度からの2年間に44名の塾生が課程を修了し、新研究挑戦奨励金公募では40件（内共同研究10件）の新たな研究テーマが採択され、研究が始動しています。

研修会活動風景



広域基礎研究塾研修会の説明会



塾生同士の研究分野紹介



未来社会を考えるワークショップ